（別紙2）　令和　6　年度　　作成日　令和　7　年　3　月　30　日

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3390700171		
法人名	合同会社ケアサービスセンターまごころ		
事業所名	グループホームまごころ・縁		
所在地	岡山県井原市高屋町1511番地1		
自己評価作成日	令和　7　年　3　月　14　日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390700171-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目２－１８
訪問調査日	令和　7　年　3　月　18　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入所者様と「もうひとつの居場所がある、もうひとつの家族がいる」の気持ちで第2の家として自分らしく暮らすお手伝いをさせていただいています。施設に籠るのではなく天候のよい日には必ず散歩等、屋外で過ごせるよう心掛けています。運営推進会議で地域の方々と連携を持ち地域行事の参加も積極的に行っており、共同生活を理解してもらい利用者同士が楽しまれる様にと考えています。地域密着型サービスとして、子ども１１０番や見守り隊の参加、地域に必要とされる施設を目指しています。健康管理は看護師が協力病院の医師に相談し、早期発見・早期対応に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念にもある①地域との関わり方、②医療との連携、③個人の価値観の尊重を実践している施設であった。1.近所の散歩コースに地域の方がベンチを置いた際には、「ここ、いつでも使っていいよ」と言われ、冬には、「イルミネーションを飾ったからいつでも来てね」と声を掛けられた。とある地域の方からは、「いつか、ここの施設に入りたい」と言われている。2.敷地内も同法人施設が併設されていて、合わせて5名の看護師がいるので連携が取りやすく、いつもと様子が違う場合には、すぐにアドバイスが聞けるので助かっていると職員は答えてくれた。3.利用者が安心安全に暮らせるように、感染対策も徹底している。朝の発熱時の対応がわかりやすいようにフローチャートを作成している。感染症グッズの設置場所も写真付でわかるように工夫していて、コロナ倉庫備品も一覧表にして見える化を図っている。利用者が施設内を歩く時には、安全に配慮して職員は少し後ろを歩いていたら、利用者は「何でついてくんの？」と目くばせしている姿が微笑しく、往診時には、利用者の手にシミがあった際には、「職員に殴られたんじゃ」と冗談交じりの会話も今では思い出の1ページとなっている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を意識しながら介護を行えるよう、事業所内の見える場所に掲示。これにより、理念に沿った介護の方向性を常に確認し、統一したケアを提供できるようにしています。職員同士で理念に基づいた介護を考え、実践し続けることで、より良いケアの実現につなげています。	理念は事務所の見える所に掲示していて、出勤時や休憩の際に目に触れている。パンフレットには、「もうひとつの居場所がある、もうひとつの家族がいる」の文言が書かれている。研修時に振り返りの場を設けていて、家庭的な雰囲気や地域との交流を大切にしている。	理念を浸透できるように工夫してみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で情報共有している。コロナ渦により行事に出向いての参加は難しいが、ひな祭りウォークに展示を行った。	地域が子守歌の里なので、イベントも多く開催されている。ひな祭りウォークに作品を出展して、利用者と一緒に見学ができた。子ども神輿と神様や鬼が施設前にやってきて、利用者は大いに楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への認知症理解を深めてもらうため、運営推進会議を通して、事業所での行事や日々の様子を報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を開催しているが、開催したとしても感染症予防の為、長時間にならないよう簡素化している。	地域代表、家族代表、公民館館長、女性会会長、自治連合協議会長、社会福祉協議会長、介護保険課職員、有識者が参加している。入退去状況や日々の様子の報告、感染対策や事故報告を行った。地域のイベント案内の情報を教えて頂け、参加者からは意見や感想も書いて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば、その都度行政へ電話で相談を行い、担当者とは顔の見える関係を目指しています。地域運営推進会議にも毎回出席いただいて地域の方からの質問に答えていただいたりしています	窓口は代表か施設長となっている。代表がケアマネジャーを兼務しているので、役場に出向くことが多い。役場の方とは、何でも言える関係性が築けている。直近では、サービスの提供加算について質問し、提出書類の確認をした。包括支援と連携して、認知症サポーターの活動もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全を考慮し施錠をしていますが日中はセンサーを付け施錠を行っていません。身体拘束虐待防止委員を中心に日々課題があれば取り上げたり、研修の参加を職員に促しています	身体拘束と虐待防止を同時に開催している。センサーマットについて、全職員から意見を吸い上げて、リーダーが取りまとめている。施設内での事例を検討して、取り組みについて再確認をしている。虐待の芽チェックリストの活用やアンケートも実施している。日中の玄関は施錠していない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止関係の研修に参加したり、虐待に関する気付きをお互い話し合い、防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいないが、制度を利用される方がいれば積極的に支援したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用者や家族に十分な時間と具体的な内容を踏まえながら説明を行い、不安や疑問点に答えることで、十分な理解が深められるように努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の面会時に頂くご意見やご要望は、出来るだけ早急に日々のサービスに反映させるように心がけています	現在、面会はインフルエンザやコロナ感染対策上、中止しているが、家族からは職員が大変だとの思いも汲み取って頂いている。何かあればSNSを活用して、些細なことでも報告している。動画や写真を送信してタイムリーな様子を伝えられている。緊急時には電話連絡をしている。家族からは利用者が食べたい物(饅頭、たい焼き、すいか)などの差し入れがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き改善に努めています。また、個別に話をする時間も設け意見を聞き、運営に反映出来る様　努めています	全体会議を開催していて、業務中にも多くの意見が挙がっている。勤務上、顔を合わせない職員に対しては、ロッカーにメモを貼っておき情報を共有している。気づきノートを活用して、何かあれば書き記すようにしている。利用者の夜間の様子やパットの使用状況について話し合いがあり、解決に至った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、不満、目標、やりがいなど個々の思いを会話の中で聴けるような体制を作っています。職員のやりたいケア、労働条件など意見や申し出があれば、整備に努めています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修員を組織し、年間計画を立てて研修を実施。継続的かつ計画的な研修を行うことで、職員の知識や技術の向上を図っています。その時々の課題に応じた研修内容を検討し、リーダーやケアマネジャーと相談しながらテーマを決定。現場のニーズに沿った実践的な研修を実施することで、職員の成長を促進しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦もあり、他事業所との交流の機会はもてなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでには、本人との面接の機会を作り、本人自身からよく話を聞くことで、関係作りを行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際にできるだけ対面で説明させて頂き、困っていることや不安に思っていることなど話を聞く機会を作っている。不安なく望みを叶えれるよう、納得されるまで何度も話し合いを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときには、本人や家族が望んでいることを聞いた上で、入居以外にも他のサービスを紹介することもあり、その時に必要としている支援を行うよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を、共に生活するパートナーとして捉え、共に支えあうという関係を職員全員が、共通の認識として持っています		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEや電話など利用し、現状報告をし、家族の思いを聞いています。また、行事などにも参加してもらっており家族の思いを本人にお伝えしたり、日々家族の話をしながら共に本人を支えていける関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ渦の為、面会等御断りしているが、コロナが治まれば本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、馴染みの人へいつでも来訪して頂けるよう取り組みたい	敷地内の同法人施設に兄妹の方がいる方もおり、一緒に病院受診をしたりしている。近所の方が偶然入居されている場合もあり、居室で時代劇を観るのが楽しみの方もいる。リビングの席が馴染みの場所となり、勤続年数が長い職員も4～5名いて、施設内でも馴染みの関係が形成されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の生活の中での役割（掃除・洗濯物・食事作り・後片付け）やゲームやレクリエーションを通し利用者同士が支え合えるように支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関わりを必要とする家族とは連絡を取り合い、相談を受ける等、つきあいを大切にしています		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話の中で希望を聞きだし、申し送り時やケアプランに記載し把握に努めています。本人からの聞き出しが難しい場合にはご家族や関係者から情報を集めて出来るだけ希望に添ったケアができるように努めています	入居時に井笠地区で使用されている「むすびの和」にて、生活歴や趣味といった情報を得ている。本人や家族からも聞き取りをしている。何かあれば気づきノートを活用して、職員間で情報共有をしている。日中は利用者が好きな場所で過ごして頂き、畳の椅子に座って落ち着かれている方もいた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されたばかりの方など、入所される前の利用施設や担当の方に情報を頂いたり、電話、LINE等でご家族へ、これまでの生活歴をお聞きしたり、ご本人と会話の中で聞き出し把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の現状を十分に把握した中で、プランを計画・実施し、お一人おひとりに合った生活を送っていただいています。また、状況の変化等記録に残して、職員全員で把握できるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題があれば、その都度カンファレンスを行い本人、家族、必要な関係者と話し合いを行い、現状に沿った介護計画を作るよう努めています	介護計画は入居時に暫定プランを作成し、何もなければ6ヶ月毎に見直している。何かあればケアマネジャーやリーダーに意見を上げて、プランに反映させている。作成時には、家族の意向や日常の様子も確認し、プランを作成している。短期目標に合わせて、モニタリングは6ヶ月毎に更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	１日の様子を記録に残し、毎日、申し送りを行ない情報の共有に努め見直しに活かしています。変更や気づきがあれば必ず閲覧する気づきノートに記入し漏れの無い様に努めています。見直しの際は職員の意見を必ず聞くようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の日々変化する状況に合わせ、既存のサービスに捉われず、柔軟に対応できるように、報告・連絡・相談の徹底を実施している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦のため外部資源の活用はできなかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の主治医を継続されている利用者もおられるが、家族の希望で、殆どの利用者は事業所の協力医を主治医としています。様子に変化のある時は、迅速な相談、対応が出来、協力医との連携をはかっています	かかりつけ医は入居時に選べるが、ほとんどの方が協力医に転医している。月１回の往診があり、ドクターや看護師長との関係性も良好で、何でも相談しやすい。敷地内にある同法人施設と合わせて５名の看護師がいる。他科受診は、家族対応でお願いしている。歯科は、必要に応じて受診している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在隣接するGHとで5名の看護師が在籍。何か変化があればその都度、施設看護師と携医の看護師と相談しています。また、看護師の気づきなど申し送り帳に記載し情報を共有し適切な受診が受けられるよう努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様のこれまでの入院退院では常に情報交換をしています。緊急時の搬送などの受け入れを確認しています。又、入院時は、退院に向けて常に状態を把握し再入居出来るように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて指針を作成し入居者の家族に対し、話し合いの場を設け、書面で事業所の役割、できることを説明し、不安や戸惑いの軽減に努めている	入居時に「重度化・終末期の看取り指針」にて説明し、同意を得ている。終末期を迎え、食事が摂れなくなった方が入院したが、「帰りたい」と希望したので施設に戻って来た。その後、職員が栄養補給を工夫した結果、2年近く経った現在もご存命である。看取り介護についての研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変や事故発生時の対応について研修・訓練を行っている。その他でも、話し合いの中で対応の仕方、連絡方法などは周知してはいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルやBCP（事業継続計画）を作成し、定期的な訓練や勉強会を実施。また、災害時に必要な物品の確認を年2回行い、状況に応じて必要な備蓄の見直しを実施しています。こうした取り組みにより、万が一の際にも迅速かつ適切に対応できる体制を整えています。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施。訓練時には地域も参加され、協力体制を築いている。連絡網は事務所に掲示している。東日本大震災の被災グループホームに学ぶにて、勉強会を実施した。備蓄は倉庫に生活用水や布団、施設内には水や食料を保管している。年2回、備蓄リストを確認して、入れ替えをしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗、パット交換時等、本人の気持ちを大切に考えて、他者の目に触れないよう、また、言葉掛けにも注意し、さりげなく対応するように心掛けています。利用者一人ひとりの性格等把握し、プライバシーを損ねないよう対応しています	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、本人の状況や気分に合わせて別の呼び方で呼ぶ場合もある。居室に入る際には、言葉掛けやノックをしてから入室するようにしている。排泄失敗時には、「ちょっと換えるねー」と耳元で囁いたり、さりげなく誘導したりして、自尊心を傷つけないようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が自己決定できるよう、日々の会話や動作、表情などを読み取るように努めています。本人の思いはどうなのか、どう働きかけたらよいのか、日々の申し送りなどで話し合っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	とっさに出た本人の小さな希望でも聞き逃さないようにし、できるだけ望みを聞けるように努め、対応など工夫しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時から、整髪や洗顔、着たい服・帽子など、その人らしい装いが出来るよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も入居者と一緒に同じものを食し、食事の話題で楽しめる雰囲気作りをしています	3食手作りで、厨房もリビングから見えるように配置され、視覚、嗅覚、聴覚から感じとれるようになっている。家族や近所の方からは野菜の差し入れがあり、食卓に彩を添えている。できるだけ自分で食して頂けるように、見守り体制を敷いている。夏にはすいか割りをして、季節感が味わえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量は毎食、記録し、1日に必要な水分量の確保に努めています。栄養バランスを考えた献立を提供しています。水分摂取が味により少ない方などはご家族と相談し本人の好む物を提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、就寝前の口腔ケアは声をかけ、必要に応じて介助にて実施しており、異変時は、提携歯科へ相談や歯科受診を行っています。今後必要があれば往診も対応予定です		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ訴え時、速やかに介助できるように、心掛けています。また、排泄パターンを把握し、定期的にも声掛けを行いトイレ誘導を実施しています	排泄チェック表を活用して、便の大きさや回数を把握している。トイレは2ヶ所あり、利用者がわかりやすいようにオレンジ色で記載している。1ヶ所は脱衣所の横にあり、カーテンを敷いてプライバシーにも配慮されている。布パンツで過ごされている方が1名、ポータブルトイレを使用している方はいない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気がいい日は散歩や、グループレクの参加をお勧めし、適度な運動と水分をしっかりとり、規則正しい生活を送る事で、便秘の予防に努めている。排便チェックを行い、定期的に排便コントロールを行い、対応しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調あるいは入浴の拒否がある場合は無理せず本人様の意思を尊重し日を改めて入浴して頂くよう対応しています	週2回の提供。デイサービスの名残があり、浴槽は2ヶ所ある。浴槽内にベンチはあるが、介護用チェアを使用している。入浴を拒否される方へは、「ドクターの診察があるよー」や「家族から頼まれているんよー」と言葉掛けをして誘導しているが、決して無理強いはしない方針。季節湯として、ゆず湯の提供をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活に配慮し、また、体調をみながら休息を取り入れています。日中の活動を促し、生活リズムを整えて夜の安眠に繋げています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と相談し、服薬支援を行っています。服薬ファイルに内服薬の情報を保管し全職員にも副作用や用法等が分かるようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、食事を一緒に行う他、散歩等、気分転換を図っている。出来る範囲で個々の嗜好品や楽しみなど支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、人が多い場所への外出機会はないが、気候の良い時に施設周辺で日光浴、散歩、などに出掛ける様にしています	地域で開催している、ひな祭りウォークに参加し、隣接する建物にひな人形を展示している。桜の季節になると、近隣の公園に散歩へ出掛けている。施設周辺を散歩する際には、庭のベンチにて一休みする方もいる。敷地内の畑では、きゅうり、ゴーヤ、なすを収穫し、採れたての野菜が食卓に並んだ。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、外出機会がなくお金を使う機会もない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いについては入所時に家族様と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話を所持されていた方もいます。手紙の受発信は原則自由ですが家族様の意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁面には四季を感じれるような壁飾りを制作して掲示している。トイレは、自動点灯・消灯できる仕様と なっている。ホールのテーブル配置、席の並びは人間関係を考慮して居心地よく過ごせるよう時折検討している。縦長い施設なので入所様の動線に邪魔になるものが無いように配慮しています	壁面には、利用者と一緒に作った桜の作品が飾られていた。モップ掛けをしていた職員が「足をあげてください」と言ったら、ヒョイと足を挙げている姿が微笑ましく、新聞や雑誌を読んでいる方もいる。高校からプレゼントされた歌詞本を手拍子で歌われている方もいた。日めくりカレンダーをめくるのが日課となっている方もいる。	利用者がリビングで快適に過ごせるように、職員間で意見を出し合ってみてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の活動量やパーソナルスペースを考慮し、心地よく過ごせる環境を整えています。その一環として、畳ソファを設置し、誰でも自由にくつろげるよう工夫し、思い思いに過ごせる空間を提供しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた布団、タンス、椅子、洋服かけ、ご家族の写真など使い慣れた物を持ち込まれています	備え付けは、ベッド、エアコン、クローゼット。家族からの写真やハガキ・年賀状が飾られていた。大好きなアイドルのポスターを貼り、挨拶や会話を楽しんでいる方もいる。自分の赤ん坊時代の写真を見ながら、職員と会話をするきっかけとしている。週2回の居室清掃、週1回のクローゼット整理の日を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や浴室、トイレ内に手摺を設置したり、浴室内の滑り止めマット、車椅子対応のバリアフリー設計の施設で、できることは自分でしていただけるよう配慮しています		

ユニット名 ： グループホームまごころ・縁

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない